

# TOPICS

## 香川大学とCCU 中正大学とのサテライトオフィス設置の開所式を開催 7/20

香川大学四国危機管理教育・研究・地域連携推進機構と台湾の中正大学（Chung-Cheng University, CCU）地球・環境科学部とのサテライトオフィスの開所式が行われました。両大学をTEAMSで繋ぎ、開会式開始挨拶

の後、お互いのサテライトオフィスの看板等を紹介しました。今後はこのサテライトオフィスを拠点として、両大学の研究者や学生交流ならびに減災科学研究の推進を実施していきます。



## 令和4年度香川大学学業優秀者学長表彰式を実施 8/8

学業成績及び人物共に特に優れていると認められた学業優秀者を表彰するもので、今年度は、学部学生40人、大学院学生13人の計53人が選ばれました。学業優秀者には、学長から表彰状と記念品のクリスタルトロフィーが授与され、表彰学生のこれまでの努力と成果を称えるとともに、さらなる成長を期

待する旨の祝辞が贈られました。また、表彰式終了後の懇談会には、学生支援センター会議委員や事務職員も加わり、学長への質問や各学部に分かれてのディスカッションが行われました。終始、和気あいあいとした雰囲気や質問や話し合いの声が飛び交いました。



## 日本初!テレプレゼンスシステム「窓」を活用した産婦人科での立会い分娩の実現 8/23

「窓」は、MUSVI株式会社映像・音声技術を結集して開発した大型モニターで、高精細な映像と音声により離れた空間の臨場感と気配、ぬくもりまでもリアルタイムに伝えることができます。この度、香川大学・MUSVI株式会社・株式会社ドコモビジネスソリューションズの協働により、コロナ禍で

面会等の制限がかかる医療機関において、「窓」を通じて遠隔地での自然なコミュニケーションを実現し、感染のリスクが全く無い安心・安全な環境の下で、患者と家族とが等身大サイズで面会や会話、立ち合い分娩を行うことが可能となりました。



## 「うまげな小豆島を感じてみまい vol.3」～小豆島の観光資源をプロモーションする～ 8/21~8/24

香川大学は、「香川と都市圏の大学連携推進事業」として都市圏の大学（芝浦工業大学、津田塾大学、東京農業大学）と連携し、それぞれの大学の強みを活かして分野融合人材の育成を目指した教育プログラムを充実させています。本プログラムは、各大学の学生たちが3泊4日の日程で小豆島に滞在し

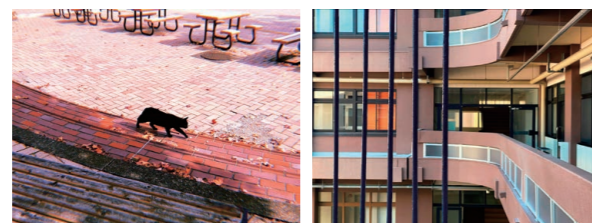
ながら、島の観光資源や魅力を発掘し、「訪れたくなる小豆島」を実現する観光プロモーションを考えました。地域課題について考察するとともに、瀬戸内国際芸術祭開催期において小豆島に訪れる観光客の動向を調査し、リピーターになる仕掛けや仕組みのアイデアを出し合いました。



## 香川大学フォトコンテスト2022 part1 作品募集中! 9/30まで

香川大学公式Instagramをフォローし、大学の魅力を伝える写真に、タイトルと「#香川大学フォトコン2022\_1」をつけて、Instagramに投稿するだけで応募完了!

香川大学学生・卒業生はもちろん、どなたでもご参加いただけます。



前回(2021 part2)の受賞作品 左から「大学猫」、「5号館」

↓賞品など詳細はこちらの特設ページよりご確認ください。



香川大学

# KADAIGEST 2022 8



## 香川大学 ヨット部

「ヨット」は、風の向きや強弱に合わせて帆を操り、大自然の中を進む爽快感が魅力的なスポーツです。私は、ヨット部の試乗会に参加し、肌で風を感じる心地よさや自然の中を走るヨットというスポーツに一目惚れし、入部を決めました。ヨットをよく知らない方は多いと思いますが、現ヨット部員もみんな大学に入ってから始めています。全国的にも大学からヨットを始める人が多く、誰でもすぐに活躍できるチャンスがあります。

香川大学ヨット部の良さは、学部、学年を問わず、部員同士の仲が良いことです。医学部ヨット部と一緒に練習しているため、幸町の学部だけでなく、医学部とも交流があります。休日には医学部の部員も一

緒にみんなで遊びに行ったりBBQをしたりと、ヨット以外でも楽しいイベントが盛りだくさんです。

私たちの目標は全日本インカレ団体戦で上位入賞することです。部員が少ないからこそ、みんなで意見を出し合い、切磋琢磨し合っています。また、男女混合で大会が行われるため、性別関係なく競い合っています。

ヨットの魅力はヨットに乗ってみたいと伝わりません。ヨット部の楽しさも入ってみたいと伝わりません。だからこそ新しいことに挑戦してみたい人、運動が好きな人、海が好きな人、とにかくヨットに乗ってみたい人はぜひSNSのDMからご連絡ください!

- 活動場所 ・高松市立ヨット競技場
- 活動時間 ・週2日(土日)
- 部員数 ・11名
- Twitter ・@kadaiyahcht
- Instagram ・@kadaiyahcht
- ホームページ  
https://kadaiyacht2.wixsite.com/my-site



法学部4年 仙田 悠人  
松江北高等学校出身





# VOICE Flarium seto. 知る、感じる、瀬戸内の海とゴミのこと。



メンバー（一部）集合写真

「Flarium seto. 知る、感じる、瀬戸内の海とゴミのこと。」は瀬戸内海のゴミ問題をテーマとしたアートイベントです。瀬戸内国際芸術祭2022県内周遊事業「おいでまい祝祭2022〜心がつながる街ごとアート〜」の作品の1つとして参加のお話をいただき、創造工学部 造形・メディアデザインコース内のプロジェクトとして開催しました。6月末の塩屋海岸での実際の海ごみ調査に始まった膨大なリサーチの結果から情報を抽出し、海ゴミの「現在の状況」と「未来への希望」をそれぞれ、インフォグラフィックと呼ばれるデザインと、直径約1mの巨大なバルーン群を用いたアート作品で表現しました。

今回の活動には総勢36名のメンバーが参加し、6つのグループに分かれて海ゴミ問題に対する調査と表現を行いました。瀬戸内海のゴミを代表する”マメ管”と呼ばれるカキ養殖用プラスチックに特化した調査を行う班、学生に対し意識調査を行う班、海ゴミの音を使って楽曲を作成する班など、ひとりひとりが興味とスキルを存分に活かしたアプローチに

挑みました。これにより、「みる」「きく」「さわる」の三つの感覚を使って楽しむことのできるイベントになりました。私自身、プロジェクトの中で同期の桑村さんと共にリーダーとして全体を見渡していましたが、メンバーの「作る力」には本当に驚きました。週一回行っていた全体ミーティングでは、綿密に行われた調査の結果や画期的なアイデアが多数発表されるため、その度に圧倒されました。初めは揃わなかった各グループの足並みも、メンバーの溢れるアイデアと柔軟性に助けられ徐々に揃っていき、最終的には巨大でありながらも、美しくまとまった空間アートとして完成させることができました。

イベント当日は、本当にたくさんの方にご参加いただきました。特に希望を象徴する大きな風船に触れられるという事もあり、小さなお子様連れの方が多く参加されていました。お子様が風船に触れている間、ご家族がインフォグラフィックをじっくりと読む、そしてお子様にも説明する、というイベントの目標とする場面が多くみられました。中にはメンバーに

直接説明を求める方、調査や表現のアドバイスをしていただけの方もおられ、非常に多くの対話が生まれました。こういった対話やお越しいただいた方の中に残った記憶そのものが海ゴミ問題解決に対し重要な役割を果たすものであり、それを生み出すことができたこのイベントは大成功だったと考えています。

私たちがテーマとした海ゴミ問題を解決するためには、継続的な活動が求められます。今回のイベントは一旦終了しますが、形を変えながら私たちのコースの文化として受け継がれて欲しいと思います。

今後も造形・メディアデザインコースの活躍にご期待ください。



創造工学部  
造形・メディアデザインコース 4年 高垣 悠紀  
島根県立浜田高等学校出身



インフォグラフィックのパネル制作風景



イベント来場者にインフォグラフィックを説明するメンバー



実際の海ゴミを色相ごとに分けた作品



インフォグラフィックを観覧する来場者



Flarium seto. 全体像



マメ管を使った作品に触れる子供たち



イベント設置風景



ドーム下で揺らぐバルーン



未来への希望を表すバルーンを手練り寄せる子供

